



# 京ヶ峰の四季

第48号

2014年秋号



第51回大運動会にて

## 精神保健福祉法の改正に思う

これまでの精神医療における精神保健福祉法の改正の歴史の中で、平成5年には家族の負担を軽減するため、「保護義務者」という家族に義務を課する重い言葉が「保護者」となりました。しかし、精神障害者に治療を受けさせる義務等がなくなったわけではありませんでした。法が変わっても払拭されないご家族の辛い思いは、当院の開催する地域懇親会に参加された家族会の方々からも伝わってきていました。そして平成26年4月、家族の高齢化に伴い負担が大きくなっている等の理由から「保護者制度」が廃止されました。しかし、現場では、ご家族の気持ちが楽になったかという、それ程伝わってきません。それは、血のつながった家族の何とも言えない深い愛情や日本の家族制度が、そうさせているののかもしれません。

今、我が子が発症し、少しでも良い方向にと病院を訪れ、我が子を理解し、病気を学ぼうとする親や兄妹がいます。そんなご家族の方々のために当院は、家族教室を開いております。しかしその反面、患者さまのご家族の高齢化は世代交代を生み、顔を見たこともないご家族が患者さまのお世話をしている現実もあります。そんな中で患者さまの身体合併症という命の場面に直面すると、他科へ転院せざるを得ない事情が発生します。他科へ入院し侵襲を伴う検査や手術ともなれば、そのご家族にすぎるしかない、人の心と命を看る当院の現実もあります。たとえ精神保健福祉法が変わっても、保護義務の中で生きてきたご家族は、入院前のエピソードの心労から抜け切れないまま、受け継ぐご家族に託して患者さまの「家族」と呼ばれる方が交代してきています。決して他人事ではないこの現実、当院は何が出来るかを考えなければなりません。「罪を憎んで人を憎まず」と言いますが、「病を憎んで人を憎まず」ではなく、「病を知ることで人を憎まなくてもよい社会が訪れる」よう、精神科で働く職員が社会に働きかけていくことが必要だと考えます。

看護局長 森 澄美江

基本理念

一人ひとりの患者さまの幸せのために  
～ For the Patients ～



# 病院TOPICS

～地域とのつながり～

## 夏祭りとお大運動会の昔と今

京ヶ峰岡田病院の数ある年間行事のなかで、代表的なものとして「夏祭り」と「大運動会」があげられます。院内大グラウンドにて、患者さんやご家族だけでなく、地域のみなさまにも大勢ご参加いただき、毎年盛大に開催しています。50年以上前に始まったこれらの行事について、開始時から現在に至るまでをお伝えし、改めて当院の取り組みをご紹介しますと思います。

### 夏祭り

正確な開始時期は不明確ですが、当院が岡崎市康生町から羽根町に移転した昭和26年頃から始まったと記録が残っています。小さなグラウンドでの盆踊りからスタートし、参加人数の増加に伴い規模を拡大してきました。お祭りの内容も盆踊りのみから、模擬店、ゲーム店、手持ち花火へと徐々に拡がりつづけ、現在では地域の花火職人の方と消防署にご協力いただき、打ち上げ花火と仕掛け花火を行っています。間近で見られる打ち上げ花火は大迫力で、毎年楽しみにしてくださっている地域の方もいらっしゃいます。



■夏祭り(平成26年)



■夏祭り(昭和30年)



■夏祭り(時期不詳)

### 大運動会

当院が羽根町にあった昭和36年にスタートした大運動会。今年で51回目となりました。開始当初は入院患者さんが運動をしたり、ご家族と楽しんでいただくことに重点をおき、競技と仮装行列を中心に開催していました。平成に入ってから、患者さんの高齢化が進んできたこともあり、ダンスなどのプログラムが増えてきました。最近では地域の小学生のダンスの披露や、パン食い競争や綱引きなどのプログラムに地域のみなさまが大勢ご参加いただき、地域と病院をつなぐ場となっています。



■第1回大運動会(昭和36年)



■第23回大運動会(昭和59年)



■第51回大運動会(平成26年)

病院、なかでも入院生活は社会との接点が極端に少なくなってしまうものです。行事を通じて地域社会や地域のみなさまとつながるだけでなく、行事の準備や予行演習を行うことで患者さんが社会の一員であることを感じるよい機会となります。地域に開かれた病院として、地域のみなさまのご理解をいただきながら、今後も楽しい行事の企画、運営を行ってまいります。



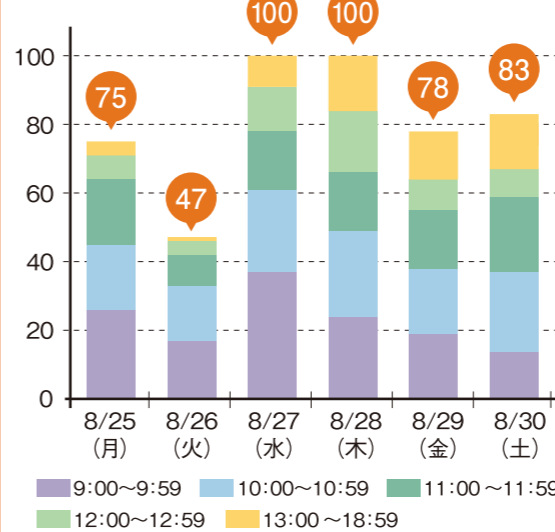
# 病院TOPICS

## 平成26年外来調剤待ち時間調査のご報告

調査時期:平成26年8月25日(月)～30日(土)

日付(平成26年)	処方箋枚数	平均待ち時間	最大待ち時間	最小待ち時間	全体待ち時間平均	平均投薬日数	平成26年度平均
8/25(月)	75	0:09	0:17	0:02	1:13	25.5	待ち時間
8/26(火)	47	0:08	0:18	0:01	0:47	28.8	0:14
8/27(水)	100	0:20	0:42	0:01	1:28	25.3	全体待ち時間
8/28(木)	100	0:16	0:33	0:01	1:44	25.1	1:22
8/29(金)	78	0:13	0:27	0:01	1:40	24.5	
8/30(土)	83	0:17	0:51	0:02	1:23	31.1	

[時間別処方箋枚数]



### ■平成26年考察

今年度の待ち時間は平均14分でした。昨年は平均20分でしたので6分短縮されました。

### ■短縮された要因

1. ヒート包装の採用を約3倍増やし、患者様に分包からヒート包装に変更して良いか確認しヒート処方を増やした。
2. 今まで検薬と薬の受け渡しを一人の薬剤師が行っていたが、職員の増員により業務を分担し、処方せんの処理が早くできるようになった。

### ■まとめ

今後も業務改善を積極的に行い、さらに待ち時間を短縮することで、よりよいサービスの提供を心がけたいと思います。



## 栄養士から季節のおすすめ

おそば屋さんで「新蕎麦」の文字を見かける時期となりました。品種や栽培する地方により夏にも新そばが出回りますが、味も香りもより良いのはやっぱりこの時期。私は秋を感じる季節モノのひとつとして楽しみにしています。種まき後70～80日で収穫でき、栽培する土地もあまり選ばず比較的育てやすいため、飢饉などに備える救荒作物(非常食)とされていた歴史があります。実は、細長い麺状になったのは江戸時代のこと。それまではそば粉をお湯で練ったおもちのような「そばがき」やそば団子が主流でしたが、技術が発達し「そば切り」という名で現在のよう

そばが誕生しました。その後、初のそば屋が江戸に登場して全国に広がり、各地で食べられるようになったのです。他の穀物と比べても栄養価が高く、良質なたんぱく質、ポリフェノールの一種であるルチン、疲労回復に良いビタミンB1、食物繊維やミネラルなどが多く含まれています。そばを食べる機会というと現代では年越しそばが有名でしょうか。栄養豊富なおそばを、最もおいしいといわれるこの時期に味わうのもオススメです。新そばの繊細な味と香りが楽しめますよ。

栄養部 近藤





# 行事報告



## 「ふかみ一座慰問公演」7月7日(月)

院内京ヶ峰ホールにて。ベリーダンスや楽器演奏、患者さまと一緒に炭坑節を踊るなど、楽しい時間を過ごしました。



## 「夏祭り」8月6日(水)

院内グラウンドにて。夕方から雨との天気予報に、直前まで開催できるのか心配しましたが、無事、花火も打ち上げることができました。1,000名を超えるご来場者があり、盛大に終えることができました。



## 「希望会バザー」9月17日(水)・18日(木)

名古屋・金山総合駅コンコースにて。14施設が参加し、当院は421点を売り上げました。木目込みパッチワークや陶芸などを買いに、たくさんのお客さんが来店されました。



## 「デイケア 一泊旅行」9月25日(木)・26日(金)

恒例となってきました幸田町の旅館「天の丸」への一泊旅行。



## 「愛知県精神障害者スポーツ ソフトバレーボール大会」10月16日(木)

春日井市総合体育館にて。当院からは1チーム出場し、4位の成績でした。



## 「大運動会」10月18日(土)

院内グラウンドにて。今年より午前中だけの開催となりましたが、短い時間の中でまとまりがあり、患者さん、ご家族、地域のみなさん、職員が心を一つにし、楽しい時間を過ごすことができました。



## 「行事食」9月9日(火) 葵2病棟

お弁当(ご飯・ふりかけ・さんまの蒲焼・玉子焼き・鶏の唐揚げ・マッシュポテト・切り干し大根の煮付け・漬物)、果物、かき玉汁、クリームぜんざい

## おすすめコーナー

## 【今号のおすすめ】「スポーツ観戦」

私のおすすめは、スポーツ観戦です。中でも野球とゴルフをおすすめします。野球場やゴルフのトーナメント会場へ行き直接観戦したり、テレビの前で観戦したり、観戦の方法はいろいろとあります。好きな選手やスター選手を応援するのも良いのですが、私の観戦の仕方は少し違って、選手の生い立ち、環境、背景等を事前に調べてから、応援したり観戦したりするようにしています。そうすることで、この一球、この一打に選手が何を考え、どんなプレッシャーと戦っているのか少しでもわかるようになり、また違った楽しみ方ができると思います。野球もゴルフもシーズン終盤です!スポーツの秋を楽しみましょう。

裏話になりますが、ある監督が言っていました。野球の試合で9回2アウトになると「あと一人!」とか、2ストライクになると「あと一球!」という大歓声が上がりますが、ほとんどのピッチャーは、この大歓声にプレッシャーを感じ、リズムを崩すとのこと。できれば、ゲームセットの瞬間に大歓声を上げて欲しいそうです。「野球は9回2アウトから」という言葉も、こんなところから生まれた話なのかもしれません。

※次号は、栄養部の長崎さんが担当します。よろしくお願いいたします。

看護部 長坂



## 編集後記

暑夏が過ぎ、過ごしやすい季節になってきました。急に気温が変化することもありますので、皆さん、お体を労り、行楽・食欲の秋を楽しみましょう。

広報委員 高山

